

特集 創り、支え、広げる「わたしたち」の暮らし

01

コープこうべによる兵庫県小野市・
市場地域買い物支援事業の展開と課題

土居 靖範（立命館大学名誉教授）



市場（いちば）地区移動販売専用の
オリジナルロゴマーク

はじめに

農林水産省の推計では、2018年現在約850万人の買い物弱者がいて、2025年には1000万人を超えると予想している。買い物弱者あるいは買い物難民ともいわれが、その大部分が、歩いて行ける範囲に食品店等がなかったり、マイカーが使えず移動できない高齢者である。本稿では、「買い物困難者」の用語を使用する。

その対策・支援としては

- ①店舗の出店—買い物困難者の住宅付近へ実店舗を出店する
- ②交通手段の提供—買い物困難者を買い物場所へ送迎する
- ③商品を届ける—注文を受けた商品を自宅等へ直接届ける
- ④店舗を届ける—移動型の店舗で巡回することがあげられる。本稿はこの④に焦点をあてるものである。

この移動販売はかつては行商と、今は移動スーパー、“青空スーパー”と言われることもある。地元で営業している個人商店やスーパーマーケット、コンビニチェーン、各種協同組合が参入している。「とくし丸」はいまでは全国各地で見られるようになった。

その多くは巡回する日時を決めて、集落にある空き地や特定の民家の軒先に乗り付けて販売を行う。自治体が移動販売の導入を要請・支援するケースも多く、期間限定で補助金を支給するところもある。

各地、各業界で様々におこなわれるようになった移動販売であるが、本稿では、地域生協のコープこうべを取り上げる。

まず、全国の地域生協およびコープこうべの移動販売状況を押さえておきたい。

1. 全国の地域生協の移動販売状況

地域生協は全国で 135 生協あるが、日本生活協同組合連合会の調査では、2018 年 3 月現在、27 道府県 33 の生協で 188 台の移動販売車^{注1)}が運行されている(表 1 参照)。単純平均すると、1 生協で 6 台となる。台数の多い順に 5 生協をあげると

- ① コープさっぽろ：愛称「おまかせ便カケル」 87 台
 - ② 福井県民生協：愛称「ハーツ便」 13 台
 - ③ コープおおいた：愛称「出逢いふれあい コープ便」 11 台
 - ④ コープこうべ 9 台
 - ⑤ コープやまぐち：愛称「コープおひさま号」 7 台
- となっている。

表 1 移動販売車導入年別の生協とその保有台数

導入年	生協名 () 内の数は台数
2004	CO・OP とやま (1)
2006	三菱マテリアル直島生協 (1)
2009	福井県民生協 (13)
2010	コープさっぽろ (87)、生協共立社 (4)
2011	みやぎ生協 (4)、コープふくしま (1)、いばらきコープ (2)、トヨタ生協 (2)、コープこうべ (9)、コープやまぐち (7)、コープおおいた (11)
2012	グリーンコープ生協ふくおか (4)、生協ひろしま (4)、日立造船因島生協 (2)、コープながの (1)、生活クラブ生協千葉 (2)、コープあいづ (3)、いわて生協 (4)、大阪いずみ市民生協 (4)
2013	コープみらい (ちばエリア) (1)、バルシステム千葉 (1)、コープあいち (1)、コープかごしま (2)
2014	コープおきなわ (3)、ならコープ (3)、コープいしかわ (1)、青森県民生協 (3)、三井造船生協 (1)
2015	京都生協 (2)
2016	生協くまもと (2)

導入年	生協名
2017	とちぎコープ (1)、エフコープ (1)

(出所) 日本生協連・全国会員生協「移動販売店車」2018 年 3 月時点の導入報告 (店舗事業支援部調べ) より作成

2. コープこうべの移動販売の概況

コープこうべの歴史は約 100 年前にさかのぼる。「生協の父」として知られる社会運動家・賀川豊彦の指導で、コープこうべの前身にあたる神戸購買組合、灘購買組合が誕生している。第一次世界大戦後の労働者の生活安定を目指し、組合員が出資し合うことで必要な食材などを手に入れやすくした。

神戸市東灘区住吉に本拠を置く生活協同組合だが、年配の世代を中心に神戸の人は「コープさん」「生協さん」と敬称で呼ぶことが多いとのことである。

移動販売車 (コープこうべでは、移動店舗と呼称している) は、高齢化で実店舗に来店することが困難な組合員の増加を受け、2011 年に実験がスタートした。その際先行していたコープさっぽろ、福井県民生協などを研究している^{注2)}。

車内乗り込み型 2 トン車 9 台 (冷蔵・冷凍設備搭載、約 800 品目搭載) で、月～土の週 6 日稼働、1 か所に週 1 回、停車・営業時間は 20 分程度、最大 150 円の「移動店舗協力金」(または税抜き金額の 10%) を毎回利用者に負担してもらう。なお 2018 年 4 月に、はじめて軽 4 輪車が第 10 号車として導入された (冷凍設備はない、約 400 品目搭載)。

乗り込み型 2 トン車では、車両後尾の入口階段を登って車内に入り、買い物したものを前の出口で支払う。階段を降りて外に出るもので、階段は 4、5 段ある。

平井寛店舗事業部買い物支援統括は「現在移動店舗は、2tトラック9台、軽車両1台。10拠点の店舗から週当たり590カ所の停留所をまわる。1拠点の利用者数は週200～400人、1日当たりの供給高（売上）は3万～10万円で平均は7.3万円だ。一人暮らしの高齢者が多いので、一人当たりの単価が低く、売り上げの確保が目下の課題だ。」と語っている（helpmanjapan.com/article/7664より引用）。

ここでは、コープこうべの移動販売の中でも、地域住民が主体となり、意欲的継続的に事業を後押ししている兵庫県小野市・市場（いちば）地域買い物支援事業に焦点を当てたい。

そこに焦点を当てるきっかけは、「協同組合による買い物支援研究会」^{注3)}の調査研究の一環として、コープこうべの店舗事業部・買い物支援担当平井寛統括から、全体的な事業概要の説明を2018年12月に受けたことにある。その中で平井氏は兵庫県小野市市場地区で、2017年4月から開始した9号車の移動販売を「成功事例」と説明されたからである。

それを实地に確かめるべく、研究会メンバー3人と渡辺峻京都生協監事とで2019年2月13日水曜日コースの移動販売9号車に伴走した。各駐車場で利用者やボランティアから話を聞いた後、小野市行政関係者や生協担当者、民生児童委員はじめとする地域の役員の方々に集まっただき、聞き取り調査を実施した。

3. 兵庫県小野市・市場地域買い物支援事業 コープこうべの移動販売の展開

コープこうべの移動販売の開始のきっかけは、小野市育ヶ丘町の西端にあった食品

スーパーの閉店であった。ここ育ヶ丘は、かなりの傾斜がある丘陵地であるが1970年代から1980年代にかけて宅地として大規模開発された。育ヶ丘町は市場地区にあるが、小野市の町の中で最も三木市に近接している。現在1047世帯、3038人が住んでいる（平成22年の国勢調査より）。

まず小野市の位置から見ておきたい。

(1) 小野市の位置

小野市は、東播磨地域のほぼ中央に位置しており（図1参照）、市域中央部を加古川が南流する。神戸市と姫路市のほぼ中間に位置する。地域的には東播磨（東播）、あるいは北播磨（北播）に区分される。兵庫県で有数の伝統工芸都市として知られ「そろばん」の生産地で有名である。

工業団地・流通団地や北播磨総合医療センターが立地している。隣接する自治体は加古川市、加西市、三木市、加東市である。鉄道ネットワークもととのっており、中心となる駅は神戸電鉄粟生線小野駅、JR西日本の加古川線市場駅や、北条鉄道北条線粟生駅である。路線バスや小学生以下、65歳以上、障がい者が無料のデマンドバスが運行されている。駅や主要バス停を拠点にしたまちづくりを進めている。



図1 小野市の位置
出所：グーグル地図より作成

1954 年 (昭和 29 年) 12 月 1 日 加東郡 小野町・河合村・来住村・市場村・大部村・下東条村が合併して小野市が発足したので、現在、小野・河合・来住・市場・大部・下東条の 6 行政区分がされている (図 2 参照)。



図 2 小野市の 6 地区
出所：グーグル地図より作成

それぞれにコミュニティセンター (コミセンと略されることが多い) の建物が置かれ、地区地域づくり協議会設置で地区の諸活動の展開に使用されている。市の職員をはじめ多数の職員が配置され、支援し、広報紙も刊行している。

現在の小野市人口 (推計人口、2019 年 1 月 1 日) は 47,993 人で、ほぼ横ばいで推移している。兵庫県の県庁所在地である神戸市と播磨地方の中心都市である姫路市という兵庫県下における二大都市のほぼ中間に位置し両市のベッドタウンとしての機能を持っている。直進距離で神戸は 30 km、姫路は 25 km ほどである。

このようなことから主として両市のベッドタウンとして 1970 年代から 1980 年代にかけて大規模な宅地化が進められた。

コープこうべの店舗はなく、個人宅配

(1917 軒)、協同購入 (2226 軒) を協同購入センター三木から配達している。組合員数は 8740 人で組織率は 51.2%、管轄は第 4 地区である。

(2) 市場地区での移動販売車導入までの経緯

この地域に移動販売車が運行されるきっかけになったのは、西の端にあった食品スーパーの閉店であったことは前述した。経営が行き詰まったのは、西の端にあり歩いて気軽にいけなかった点と、車を運転できる人は品数が多く価格の安いイオン等の大型店のほうに行くことが多かったためといわれている。2016 年 9 月 18 日、同店は閉店された。



写真 1 現在も閉められたままの店舗

閉店によりこの地域で安心して暮らせないと感じる高齢者も多く、生協第 4 地区総代会で買い物支援の要望が出された。市にも対策の要望が多数寄せられ、市の総合政策部は対策をたてるため、調査に入っている。市の要請を受け、コープこうべの事業部は移動店舗の検討を始め、試験運行をすることを 11 月に市に打診した。

市では翌年 2017 年 1 月に市場地区 3000 の全世帯に移動販売利用意向調査アンケートを回覧方式で実施している。移動販売車の写真や運行概要を記載した用紙の裏面

に、次の意向項目4つがあげられている。

- ①移動販売車が家の近くにやってくれば、利用されますか。
- ②移動販売車が来てほしい曜日はいつですか。
- ③普段、買い物に出かける移手段はなんですか。
- ④ご家族全員の年齢層
- ⑤その他意見の自由記述であった。

2月には町・組・班ごとに整理したアンケート結果をもとに、移動販売利用意思ありの住民マップを作成し、コープこうべの担当者と運行案および停留所の案を検討、作成作業にはいった。それらの経緯をへて、小野市・小野市市場地区地域づくり協議会・コープこうべの3者での協定を結ぶことが同意され、小野市役所^{注4)}で3者の代表が集まり、「小野市地域支え合い体制づくりに関する連携協定」が締結された。なお、小野市から運行への補助金支給はない。安否確認や小野の地域でいつまでも安心して住み続けられる手立てとして位置づけている。

行政やコープこうべだけでなく、地域の自治会の市場地区地域づくり協議会が中心となり、運行を準備したことが特徴である。地域の課題を基に、移動販売店舗車が運行する意義やそれを継続して行う手立てを地域で共有する会議を開催し、4月5日からの運行開始を控えた3月には、市とコープこうべが停留所ごとに移動販売車の訪問時間をしらせるチラシを作成し、住民に配布している。

4月5日の移動販売車出発前には市のコミュニティセンターいちばで、蓬萊務市長らが出席して式典も開かれた。

(3) 市場地区での移動販売車運行の特徴・実績・評価

市場地区での移動販売運行は28か所で、2017年4月から週3日10:40～16:10の間に販売されている。

最終ページのルート図に示すように、月曜日は山田町、大島町、市場町／水曜日は育ヶ丘町／金曜日は檜山町、池尻町、二場町、榊町となっている。3日とも、生協職員OBの同じ運転者兼販売者が担当し、利用者から絶大な信頼を得ていた。当日朝7時半には拠点のコープ西神店で、日配品や野菜・くだもの冷蔵品や肉・魚等の冷蔵品を店内の売り場等から運び車内に配列する作業を開始する。シルバー人材の手助けも借り、釣り銭準備等様々な業務を終えて9時半にはそこを出発する。第1番目の停留所に遅れないよう、早い目に出発している。

各停留所での販売を終えて遅くとも、17時には拠点に帰着する必要がある。売れ残った日配品・冷蔵品・冷蔵品等をお店の売場に早く戻す作業が優先される。その後ポストレジや売上金の勘定の清算、日報作成、棚や床、階段の清掃などのこまごましたすべてを終えたら18時すぎになるという。



写真2 前の出口で精算し階段から降りる

運行の特徴だが、移動販売車が到着するとオルゴール音楽が鳴る。音楽は市場小学校の児童と先生が一緒に作った「水辺の楽



写真3 買い物を終えて談笑する風景。右は入口階段

校」が使われている。車体横や前部に、市場地区移動販売専用のオリジナルロゴを作成し、貼りつけている。(21 ページ目参照)。

各停留所には、サポートとして民生児童委員や自治会役員が4、5人集まっていて、利用者への声かけや、高齢利用者へのステップの昇り降りの手伝い、時には買い物した品をもって自宅まで寄り添っていく風景が見られる。今回調査した水曜日コースでは最初の停留所から最後の停留所まで、全員がずっと随伴されていた。お客の少ない合間には、移動販売の車内で買い物し、自宅にそれを運んでいた。利用組合員に聞いたところ、コープこうべのこの移動販売車以外に、個配や共同購入を利用しているかたもあり、使い分けている状況が見られた。

停留所ごとに買い物にきた組合員達との話に夢中の民生児童委員の光景が見られた。ある民生児童委員の“毎回参加するのが楽しい。からだの健康と同時に、こころの健康も得ている”との言葉が印象的であった。この方々はサポーターとして自発的・主体的に参加しており、もちろん無償である。これまで実施した他の生協の移動販売調査でも停留所にボランティア参加者はしばしば見られたが、すべての停留所ではなかった。このように、自治体・生協・

住民によるとりくみによって買い物客による「憩いの場づくり」がすすんできた。

移動販売の実績では、コープこうべの他地域の移動販売と比較して、この9号車は利用者数、売り上げともに高い実績を示している。時期や停留所で、利用が落ち込むこともあるが、それに対しては地域で柔軟に対応するシステムが構築されているのが見事である。それを民生児童委員のかたは、「振り返り会議」といわれていたが、正式にはほぼ3か月おきにコミセンいちばで開催される「買い物支援事業連絡会」のことであった。

事業が始まった2017年の6月1日に第1回が、8月29日に第2回、11月28日に第3回、2018年2月22日に第4回の連絡会が開催されている。その後も定期的に開催され、直近では2019年2月26日に第7回の開催があった。毎回詳細な会議録が作成され、毎年刊行される『小野市地域づくり協議会事業実施報告書』に、エッセンスが集約されているので参照してほしい。

この連絡会では、①移動販売車の持続的な運営を行うため、各地域で問題点の検討と解決策をさぐる。②移動販売車の利用促進啓発活動を行う。③地域コミュニティを発信するため、各地域で環境整備を行うことをメインの事業にしている。その一環で、ダイヤの変更をしたり、昨年2018年10月には、移動販売利用上の問題点・要望等のアンケートを全世帯に回覧方式で実施し点検している。この結果をコープこうべの担当と打ち合わせし、停留所の増設も行っている。

4. コープこうべの 買い物支援事業の課題

コープこうべでは小野市および地域づく

り協議会との連携協定を結んで成功したこの事例を「小野モデル」と呼び、これを教訓に神戸市西区、垂水区、加東市へと協定締結を広げている。また、赤字続きだった他の移動店舗についても改革に着手する意向を打ち出している。

大きな動きとして、2018年4月にはじめて軽4輪車を第10号車として導入している。冷凍設備はなく、約400品目しか搭載できないといえ、この車両運行の意義は極めて大きい。



写真4 軽四輪車での移動店舗
出所：神戸新聞 NEXT 2018.05.23 より

車内乗り入れの2トンは高齢者にあまり優しくないのである。昇り降りの階段が問題である。軽の場合、三方に棚が一斉に開き、そこでは買い物にきた人の会話が開花する場面が見られる。2トン車から軽への転換を課題として、検討してほしいと考える。

第二の課題としては、サロンづくりを積極的に目指してほしい。停留所付近の自治会館、公民館、集会所をたまり場にサロンを作ることを検討してほしい。

以前、買い物支援研究会で、コープあいちの移動販売車の現地調査をした際の「なごやか喫茶」を参考に紹介したい。

コープ大高インター店から派遣されている移動販売車は、火曜から土曜日の5日間

フル活用されていて、停留所設置に色々と工夫し、ゆっくりと集えるところになっている。火曜コースの2番目の引山荘前（中集会所横）の停留は11:30～12:20で、その横にある中集会所内1階フロアで「なごやか喫茶」として10:30～12:30の間サロンが開設されている。

参加は無料で、コーヒーや抹茶はお菓子付きで100円、漬け物つきの味噌汁は30円で、ボランティアが提供している。移動販売車からおにぎり等食べ物を買ってきて、食事もできる。常時25人前後の参加者があるとのことである。

生協の移動販売車とのコラボで、毎週火曜日に開催されるこのサロンは区政協力委員、民生委員、老人クラブ、いきいき支援センター、社協が顔を揃えて会議を重ね、コープあいちに協力を要請し、翌年2015年4月から実現した。なごやか喫茶では現在は10数名の地域ボランティアがサロン運営にたずさわっている。

季節ごとのイベントも開催され、その際の参加者はもっと多く、お手伝いやおしゃべりの輪が広がっていている。“おしゃべりが楽しい”、“食べ物がおいしい”、“自分の居場所があって嬉しい”と、サロンは進化発展中とのことである。

コープあいちによると、このコースの2016年3月の平均利用者数は95人、平均供給高は11.5万円である。

注1) 生協による移動販売車の概要をまとめてみた(2017年当時のデータより)。

①愛称

各生協の移動販売車には、愛称がつけられているところがほとんどである。

②使用車両

151台の車両タイプは2トン車が多く、ついで軽トラックが占める。3トン車は若干しかなく、どうしても道路幅が狭い中山間地に入るこ

とが多いからと思われる。

軽トラックは 3 方跳上式扉 (写真 4 参照) で、まわりから商品を取りだせるが、雨の場合には傘が必要になる。アイテム数は 600 アイテム位。

2・3 トン車は圧倒的に車内販売方式で (写真 2、3 参照)、700～1000 アイテムが積めるが、車内通路が狭いので、2、3 人が入れれば窮屈で、順番に入ることになる。トラックの床が高いので、上り下りに 4、5 段の階段を使う必要があり、高齢者には抵抗がある。そこでスロープにした移動販売車もごく少数ある。

3 トン車では停留場で右側に車体を広げ、通路をゆったりとする装置の導入が図られている車両もある。その場合アイテム数は増え、より多く積める。

③車両価格

軽トラックで、使用する荷台部分をオリジナルに改造し、冷蔵庫やラックを設置する費用を入れておよそ 400 万円くらいである。2 トン車は 1000 万円くらい。リースで借りる事もある。

④アイテム数と供給高目標

生協店舗にある商品ケースから移動販売車に扱いアイテムが搬入されるが、利用実績は生鮮食品が大きい。品揃えの要望や利用実績とで商品構成を随時変えている。

置いていない商品は当日担当者に依頼したり、拠点店舗に前もって電話注文して、次回に購入できるようになっている。移動販売店舗の目標とする 1 日の供給高を 10 万円としているところは多く、その実現のため客単価 (目標は 1500 円) の向上と販売拠点での利用者増を目指している。

⑤職員

職員は運転手 1 名以外に販売員 1 名配乗のところもある。正規職員、嘱託職員 (定年退職者の再雇用)、パート職員と、生協ごとに違う。

⑥停留場所

停留場所は各種施設での停留と組合員個人宅とに大きく分かれ、その組み合わせもある。前者の場合は地元自治会などと打ち合わせし、30 分ほど停留するところが多い。個人宅前では極めて短時間が普通である。

移動販売車をどこに止めるか、駐車場所の選定は地域状況や道路状況により違うが、場所に

より駐停車が難しいところが多い。狭い道路では、移動販売車の駐停車が極めて困難で、ゆっくりと買い物が出来ない所もある。

⑦地元自治体との提携が広がる

地元自治体との提携で移動販売が広がっているの、いくつか紹介したい。福井県民生協は移動販売事業を 2009 年 10 月からはじめたが、福井県の「集落移動販売システム整備事業」(福井市内)を受託し 2010 年 7 月から開始している。この事業では生協未加入者も利用できるが、次第に生協加入の増加が見られる。

2012 年 3 月から移動販売を軽トラックで始めたグリーンコープ生協ふくおかは、2013 年 5 月より「遠賀町買い物困難者対策モデル」にもとづき、遠賀町での移動販売を拡大している。

コープかごしまは、2013 年 2 月から薩摩川内市の「買い物不便地域支援モデル事業」を受託し移動販売を展開している。

注 2) 移動販売店舗に意欲的な生協として、福井県民生協があげられる。2010 年 7 月に日生協の主催で、移動店舗事業で先行する福井県民生協において、全国の 20 地域生協が参加した移動販売セミナーが開催されており、移動販売店舗事業のノウハウが各地の生協に伝わっていった。本文表 1 から読み取れるが、セミナー開催の翌年 2011 年から各地の生協で移動販売店舗導入が著しく増えているのである。

注 3) くらしと協同の研究所の企画研究会の 1 つ。2015 年 10 月、自主研究会としてくらしと協同の研究所の理事会で設置承認をうけ、発足した。研究テーマは買い物困難層が各地で一層増大する見通しであり、協同組合による買い物困難層解消を中心に、いつまでもその地域に住みつづけられる地域づくりの手立てを考える。

現在、全国で展開されている様々な買い物支援のなかでも、移動販売の実態に焦点を絞り既存調査やデータ等で把握する。それに基づき移動販売システムについて、特徴や問題点・課題、都市部と中山間地との違い等を検証する。地域生協以外の農協等や福祉団体が関係する買い物の支援についても、課題や留意点を析出する。

研究会参加メンバーは、「くらしと協同の研究所」研究委員であった久保建夫・熊崎辰広・土居靖範の 3 名である。

注4) 小野市の行政評価はかなり高い。高校3年生までの医療費を所得制限なしで無料化していることや総合医療センター設置、生協の移動販売実施、小学生以下、65歳以上、障がい者無料のデマンドバス運行に見られるが、現代社会の基本4要素である「医食住交」維持を住民の生存権という基本的人権保障の視点で実現しているのである。

2005～2006年の古い情報で恐縮だが、小野市の行政改革は人口規模別都市ランキングで全

国第1位にランクされている。これは日本経済新聞社が全国695市と東京23区を調査し、改革の先進性を示す改革度ランキングにおいて、人口5万人未満の人口規模で全国第1位と評価されたのである。

行政改革度は、住民主体の行政運営へ向けた改革度合いを示す物差しで、透明度、効率化、活性化、市民参加度、利便度の4つの要素から評価している。この4要素について計71項目の指標質問で算出されている。

<参考資料>

表2 市場地区の運行時刻表

「コープこうべ移動販売車」運行時刻等の変更のお知らせ

このたび、移動販売車の安全運転のため運行時刻等の見直しを行いました。誠に勝手ではございますが、平成30年10月1日から「コミュニティセンターいちば」での販売を中止させていただくこととなりました。これに伴い、毎週水曜日、午後3カ所の停留所（青ヶ丘町内）の販売時間が、下記のとおりに変更となります。ご不便をおかけしますが、何卒、ご了承くださいませようお願いいたします。

月曜日コース

販売場所	開始時刻	販売時間	終了時刻	備考	
①山田町	らんらんバス山田西バス停	10:35	0:20	10:55	変更なし
②山田町	山田町公民館	11:00	0:30	11:30	
③山田町	住吉神社	11:35	0:25	12:00	
④市場町	寺脇公会堂	12:10	0:25	12:35	
⑤市場町	大西紙器工業㈱様駐車場	12:40	0:20	13:00	
⑥市場町	変更コミュニティセンターいちば	中止		変更前(13:05～13:20)	
⑦市場町	市場町公民館	14:05	0:25	14:30	変更なし
⑧大島町東	大島町東公民館	14:40	0:25	15:05	
⑨大島町中	(株)コープ株式会社員寮駐車場	15:15	0:25	15:40	
⑩大島町中	大島町中公民館前公園	15:45	0:25	16:10	

水曜日コース

販売場所	開始時刻	販売時間	終了時刻	備考	
①青ヶ丘町	自治会館駐車場	10:35	0:25	11:00	変更なし
②青ヶ丘町	こだまクリーニング北側	11:05	0:15	11:20	
③青ヶ丘町	JA 兵庫みらい南側	11:25	0:25	11:50	
④青ヶ丘町	14 組塔本様宅前	11:55	0:25	12:20	
⑤青ヶ丘町	2号公園前	12:25	0:25	12:50	
⑥青ヶ丘町	4組・7組境界	12:55	0:25	13:20	
⑦青ヶ丘町	変更らんらんバス青ヶ丘東バス停	14:30	0:30	15:00	
⑧青ヶ丘町	変更青ヶ丘町保育園裏側ゴミステーション	15:10	0:25	15:35	変更前(14:40～15:05)
⑨青ヶ丘町	変更9組空き区画前	15:45	0:25	16:10	変更前(15:10～15:35)
⑩市場町	変更コミュニティセンターいちば	中止			

金曜日コース

販売場所	開始時刻	販売時間	終了時刻	備考	
①櫻山町	らんらんバス 室山バス停南側	10:35	0:20	10:55	変更なし
②櫻山町	櫻山町公民館	11:05	0:25	11:30	
③櫻山町	峯房様宅 横の道路	11:35	0:20	11:55	
④池尻町	駐車場(自治会1班2組・広島川沿)	12:05	0:30	12:35	
⑤池尻町	駐車場(自治会2班・広島川沿)	12:45	0:30	13:15	
⑥市場町	変更コミュニティセンターいちば	中止		変更前(13:20～13:35)	
⑦市場町	こみなみデイサービスセンター	14:05	0:15	14:20	変更なし
⑧市場町	まんてん堂グループホームおの南	14:30	0:15	14:45	
⑨二葉町	二葉町公民館	14:50	0:20	15:10	
⑩榊町	らんらんバス上榊バス停前公園	15:20	0:20	15:40	
⑪榊町	らんらんバス下榊バス停付近公園	15:45	0:20	16:10	

出所：コープこうべの広報資料

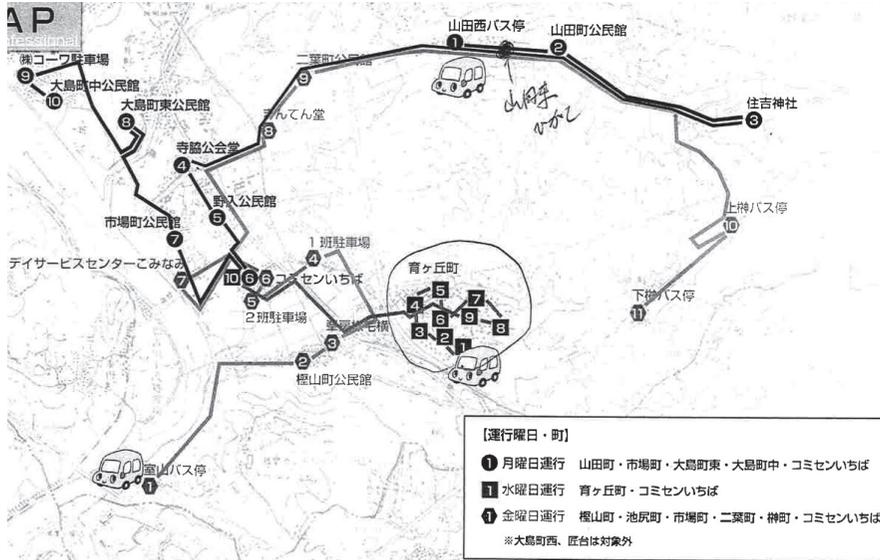


図 3 市場地域での運行ルート

表 3 小野市での移動店舗スタートの経緯

時期	内容
2016年9月	<ul style="list-style-type: none"> ・小野市総合政策部より、移動店舗について聞きたいと連絡が入る ・9/18 トーホー育ヶ丘店閉店
2016年10月	<ul style="list-style-type: none"> ・第4地区の地区別総代会で、小野市育ヶ丘在住の総代より同地区のスーパーが閉店したため、地域の高齢者の買い物支援にコープこうべの移動店舗を運行してほしいという要望が出る ・事業部でも小野市での運行について検討を開始
2016年11月	<ul style="list-style-type: none"> ・小野市の担当者が神戸市垂水区多聞台地区での移動店舗運行の様子を視察 ・副市長から正式に試験運行の依頼（第4地区本部同席） ・移動店舗の予備車を使用して小野市市場地区での運行を目指すことで同意
2016年12月	<ul style="list-style-type: none"> ・小野市のコミセンいちば（地域コミュニティセンター）で、地域住人に移動店舗車輛のお披露目 ・市場地区の住人アンケート作成開始
2017年1月	<ul style="list-style-type: none"> ・約3000世帯への移動店舗に関するアンケートを各自治会で実施（回覧方式） ・小野市とコープこうべで地域支え合いに関する協定を結ぶ事で同意
2017年2月	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果をもとに、地域自治会等と運行案及び停留所の案を作成 ・最終的に小野市・小野市市場地区地域づくり協議会・コープこうべの3者での協定を締結
2017年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・停留所ごとに移動店舗の訪問時間をお知らせするチラシを作成、自治会ごとに住人に配布
2017年4月	<ul style="list-style-type: none"> ・4/5（水）コミセンいちばで出発式を開催 ・月・水・金の3日間、計28の停留所を訪問開始 ・訪問開始週の利用者は323人、供給高は333千円

出所：コープこうべの店舗事業部 作成資料